

り、終に横綱の免許あり、

〔遊京漫録下〕大洲の大男

さつき末つかた都に有りしに、伊豫の國より、世にめづらしき大男の來て、難波に旅居するよしひさわぐ事有り、是は伊豫の國、大洲のゑとりなりけるが、手のすぢをたがへてければ、難波にさるかたのいたづきつくろふ道にたへたるぬし有りければ、ふりはへのぼり來て、いたづきつくろふほど、とゞまれるなりけり、いづくにもめづらしきにうつる人心にて、此頃はたゞ大男のみことぐさとしたりき、六月ついたち頃には、いたづきもいえにければ、京の六條の御堂にまうでながら、祇園會をもをがみまつらばやとて、難波よりのぼりくるよし、又ひさわぐに、五日には、彼大男のぼり來たり、けふは六條にまうづ、あすは北野になどいひて、某がしのさうしにいひけん鬼娘のやうに、辻大路を西東にはせ、南北にかける人おびたゞしく、らうがはしさいはんかたなかりき、されど鬼娘はうきたることなり、是はまことなりけり、しかおしごりて行く人の中を、たちまじりてあゆみくるものが、肩よりかみはあらはれて、遠目にもまぎれざりけり、年は廿七、たけの高さ七尺五寸、身の重さ三十八貫目ありとぞ、なり形よくと、のほりて、すまひめきたるさまはなし、六條の御堂にまうでしをり、門主より米二俵給へりしを、左右の手に引きさげで、かしこまり申してしりぞきたりとか、力はかたちにはおとりたりとぞ、人々いひける、そは世の中のみまじらひ、心になふ身なりせば、はやくすまひとなりて、今の世のほとともいはるべきを、力をいだしこ、ろ見し事なきからに、おのづから出づべき力もいでぬなるべし、京にては、六條村といふに、ゑとりどもの住むところ有りて、そこにしばしをりき、日ごとに大男見にとて、六條村へと行く人、ぬのびきにつゞきたり、おのれ清水も人にそゝのかされて、行き見しに、家ゐむねくしきも有りて、村をさめく者の家に大男居たり、こゝかしこよりたまへりと見えて、衣